

2024年 第4回 須坂市水道料金等審議会 議事録(要旨)

○開催日時場所

2024年10月2日(水) 午後1時30分～午後3時30分
須坂市役所 本庁舎3階 305会議室

○出席者

委員(8名) 中島委員、湯本委員、中村委員、藤沢委員、永田委員、古川委員、
杉田委員、吉川委員
幹事(2名) 勝山水道局長、中山上下水道課長
書記(8名) 千葉課長補佐、平林課長補佐、富沢(文)課長補佐、富澤(一)課長補佐、
宮川(俊)課長補佐、松原主査、丸山主査
委託事業者(2名)

○傍聴人

市民1名

○配付資料

会議次第(裏面に審議会条例)
須坂市水道料金等審議会名簿(裏面に席次)
第3回審議会議事録
経営戦略の将来推計(水道事業)
経営戦略の将来推計(下水道事業)
水道事業経営戦略(目次案)
下水道事業経営戦略(目次案)

○会議の状況

- 1 開会(中山課長)
- 2 あいさつ(勝山局長)
- 3 あいさつ(中島会長)
- 4 審議状況
 - (1) 第3回審議会議事録について
 - (2) 経営戦略の将来推計(水道事業)について
 - (3) 経営戦略の将来推計(下水道事業)について
 - (4) 水道事業経営戦略(改定版)の構成について

(5) 下水道事業経営戦略(改定版)の構成について

事務局より説明を行った。

これに対し、委員から出された意見・質問の概要は次のとおりである。

委員 類似団体の基準は何か

事務局 水道事業では、第2回審議会資料の10ページに記載の、給水人口3万人～5万人未満で構成される区分の自治体です。

下水道事業では、第2回審議会資料の11ページに記載の、公共下水道事業で人口3万人～10万人未満、処理区域内人口密度区分50人未満/ha、かつ供用開始30年以上のBd1区分の自治体です。

委員 事業別ということで算出の根拠上理解できるが、通常水道料金と下水道使用料の請求書はセットで来ることが多く、料金比較に関してもセットにするとわかりやすい。

両事業とも20年間毎に利益を確保するという考えでよいか。

事務局 事業が別のためご理解願います。

両事業とも、20年間毎で検討したいと考えています。

委員 現状人口減少を前提として検討しているが、須坂長野東インターチェンジ周辺開発によって、人口増加がするというシミュレーションは無いのでしょうか。

事務局 インターチェンジ周辺開発によって、使用水量に関しては増加する見込みを立てていますが、人口増加は現状見込んでおりません。

須坂市作成の都市計画マスタープランなども、人口減少を見込んだ計画となっています。

委員 水道事業の繰越金は何に充てているか教えてほしい。

事務局 当期純利益は、建設改良積立金と減債積立金に積立し、水道事業の施設更新等に係る経費や、起債の償還に充てています。

委員 水道事業と下水道事業の改定率の数値が似通っているが、どう理解すればいいか。

事務局 改定率がほぼ同率になったのは、試算の結果、偶然似たものになっています。
また、水道事業と下水道事業を比較すると、下水道事業は一般会計からの繰入金があることから、水道事業の方が経営は厳しい状況にあると言えます。

委員 下水道事業に関して、資料上では10年間毎と20年間毎の利益確保比較に関して、世代間の平準化を掲げていたが、どこまでの将来を鑑みることが適切か。

事務局 今回20年間毎としていますが、20年以降の世代のことも考え、8.5%が適切と考えました。

委員 経営戦略はあくまでも現状からのシミュレーションとなるが、将来見直し作業をすることで、今回提示の数字と変わることはありうるか。

事務局 あくまでも現状の数値を用いたシミュレーションであり、将来はその時の数値を用いますので、内容が変わることはあります。

5 その他

委員 「下水道ふれあいデー」に各自治体のマンホールが展示されていました。須坂市は昔ながらのシンプルなマンホールです。

近ごろ、お目当てのマンホールを訪ね歩くことや、マンホール自体を売却する動きも出ています。須坂市もこのようなことを検討されてはいかがか。

事務局 今後の事業の参考にします。

事務局 次回の第5回審議会は、最後の審議会となる予定です。

日時は11月20日(水)13時30分より、305会議室にて開催いたします。

6 閉会(中山課長)